

読書の時間を大切に下さい。一冊の本との出会いがあなたの生き方を変えてくれることだってある

マーフィー

書物を読むということは、他人が苦勞してなしとげたことを、簡単に自分に取り入れて改善をする最良の方法である

ソクラテス

読書習慣



「信じよう、本之力」

10月27日から11月9日は「読書週間」です

市立図書館
小田 雄一 館長



読書の目的

子どもの読書

子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。

人生経験の少ない子どもは、本の世界に入り込み、さまざまな疑似体験を重ねることで、精神的に成長し、生きるために必要な知恵や勇気を身に付けます。さらに著者や登場人物の考え方や感じ方を
知ること、ひとつの出来事をさまざまな角度からとらえる「多面的な思考力」や、他者の気持ちを理解し思いやる「共感性」を高めることができます。

大人の読書

子どもの読書の効果はおおむね大人の読書にも通じるものです。ただ大人の場合、趣味や嗜好や読書に対する意識の違いから、読書のタイプが分かれます。ですので、バランスの良い読書を心掛けましょう。

現在最も一般的なのは、「趣味や娯楽のための読書」です。楽しい時間を過ごしたり、暮らしに役立てたりすることで、生活に潤いを与えます。

「学習のための読書」は、達成感や自己満足度を強く感じることが出来ます。良い結果を得て、継続して行うことが、自己肯定感も高めます。

そして、ぜひ意識して行つてほしいのが、「人生を考えるための読書」です。人間一度は必ず、自分が生きている意味を考えるとしますが、先人や賢人と呼ばれる人の本には古今東西脈々と受け継がれた知恵があり、私たちにそのヒントを与えてくれます。あなたの心を揺さぶり、魂に響くものが必ずあるはず。読書はそんな一冊を見つかるために行うのかもしれない。

読書を習慣化するコツ

読書が好きなら人の話を聞くと、子どもの頃よく絵本を読んでもらった、あるいは家族の中に本をよく読む人がいたということが多いようです。身近に本があることで自然に読書の機会が増え、その習慣が大人になっても続いているといえるでしょう。

では、子どもの頃、本に親しまなかった人はもう読書を習慣にすることはできないのか？もちろんそんな事はありません。もし、あなたが読書を習慣にしたいと思うなら、その気持ちを持ち続けること、いつも手元に本を置いておくこと、そしてちよつとした時間を見つけてその本を開くようにすること。そうすれば、自然と読書の習慣が身に付いてくるはず。読みたい気持ちがあるのなら、あなたは読書習慣への道を一歩踏み出したと言えるでしょう。

読みたいけど、時間もないし、なかなかねえ…という人は多いと思います。そういう人は、以前読んだ本を読み直してみるのはいかがでしょうか。授業で仕方なく読んだ小説や、読んでみたけどさっぱり意味の分からなかった古典など、年齢を重ねてさまざまな経験をした今、読み直してみると、全く違った感想を持つかもしれません。昔見た映画を見直して、若い時にはさほど印象に残らな

かったシーンで、深い感動を覚えたという経験をお持ちの人もいるのではないのでしょうか。読書でもきつと同じ体験ができると思います。

読書が好きなら、お気に入りの作家や好きなジャンルがあるでしょう。好きな本を読むのは楽しいですが、時には読んだことのない分野や自分と違う意見を持った人の本も読んでみると、新しい発見があるかもしれません。表面的な知識を身に付けることだけが読書の目的ではありませんが、現代社会を生きる私たちは、世界の動きとも無関係ではられません。日常生活の関心事だけでなく、さまざまなことに関心を持つ、おのずといろいろな本に手が伸びるでしょう。それが、読書を続けるための秘訣でもあります。

秋の夜長、いつもよりゆつくり時間を掛けて本を読んでみてくださ。よく知られた本でなくても、自分の心に響く一冊を見つけたら、それがあなたの一生の宝物になるでしょう。明日読む本が、長い人生の中であなたがつまづいた時、手を差し伸べてくれるかもしれません。

保護者のかかわりが、
子どもの読書習慣に影響

平成16年に行われた「親と子の読書活動等に関する調査(文部科学省)」では、保護者の読書に対する態度が、子どもの読書習慣に次のような影響を与えていることが示されました。

保護者が読み聞かせをしていた時期と、児童・生徒が1カ月の間に読んだ本の数の関係をみると、読み聞かせをしている期間の長い児童・生徒の方が1カ月の間に読んだ本の冊数が多くなるという傾向が見られます。また、保護者の読書好きの程度が高くなるにつれ、児童・生徒も読書が好きという回答が多くなっています。

「家に本をたくさん置く」、「図書館に連れて行く」、「本のことについて話をする」、「読書会や読み聞かせ会などに参加する」などの保護者の努力が、子どもが読書好きになる傾向を強めます。



読書好きは勉強好き?

平成21年に実施された全国学力・学習状況調査では、読書と学力の関係が次のように示されています。

家や図書館で普段から1日当たり10分以上読書をする児童、本を読んだり借りたりするために学校図書室や地域の図書館へ行く児童の方が、問題の正答率が高い傾向が見られました。また、読書が好きで児童の方が、問題の正答率が高い傾向がみられました。



ブックスタート



4か月児健診で保護者と赤ちゃんに丁寧に向き合う司書(右)

市は、4か月児健診で本をプレゼントしています。

まだ字を読むことや、言葉の意味を全て理解することはできない赤ちゃんも、絵をじっと見つめたり、指差したり、読んでくれる人を見つめてその声に耳を澄ませたりと、赤ちゃんそれぞれの絵本の楽しみ方があります。

「絵本を読む」のではなく、大好きな人と一緒に、その楽しいひと時を「分かち合う」…。そんなひと時を、ブックスタートを通して、できるだけ早く届けています。

おはなしの部屋

市立図書館には「おはなしの部屋」があります。ここでは市内のさまざまな読書ボランティア団体が子どもたちに読み聞かせをしています。

読み聞かせは、子どもと本を繋ぐきっかけになり、親子の楽しい触れ合いの時間にもなっています。

子ども向けのいろいろな絵本がありますが、どんな本を選んだらいいのか分からないことも多いのではないのでしょうか。ここでは質の高い絵本の紹介もしています。

また、読み聞かせは、大人も子どもも、お話の世界に入ることのできる世界を積極的に体験できるのです。



市立図書館で読み聞かせをするボランティア団体「福間屋崎子ども劇場・おはなしの国」の活動

図書館司書が選んだ
お勧めの9冊



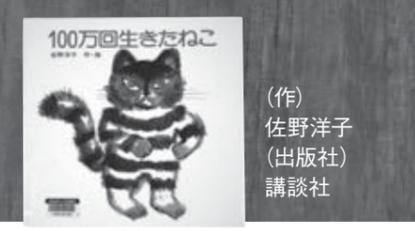
いない いない ばあ



(文) 松谷みよ子
(出版社) 童心社

ブックスタートでお渡ししている本です。赤ちゃん絵本の元祖です！親世代もこの本で育ったかたが大勢いるロングセラーです。「いないいないばあ」の繰り返し楽しくやさしい時間をつくれます。赤ちゃんとの触れ合いにぜひどうぞ。

100万回生きたねこ



(作) 佐野洋子
(出版社) 講談社

100万回も死んで、100万回も生きた猫のお話です。100万回も生まれ変わった猫が野良猫だったとき、誰よりも自分が好きでした。そこで白い猫と出会い…。大人にもお薦めしたい絵本です。

星の王子さま



(著者) サン・テグジュペリ
(出版社) 岩波書店

サハラ砂漠の真ん中に不時着した飛行士が、星からやって来たという不思議な男の子に出会いました。「ほんとうのこと」しか知りたがらない星の王子さまとの触れ合いを描いた世界中から愛される名作です。

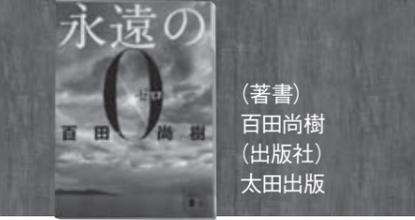
ゲド戦記 全6巻



(著者) U. K. ルーグウィン
(出版社) 岩波書店

「指輪物語」「ナルニア国物語」と並ぶ世界三大ファンタジーの一つです。並外れた魔法の力を持つ男ゲドの波乱万丈の生涯を軸に、無数の島々と海からなるアースシー世界の光と闇を描く壮大な物語です。

永遠の0



(著者) 百田尚樹
(出版社) 太田出版

日本軍敗色濃厚な中、生への執着を臆面もなく口に、仲間から「卑怯者」と蔑まれたゼロ戦パイロット。「生きて帰る」という妻との約束にこだわり続けた男はなぜ特攻を志願したのか？はるかなる時を越えて結実した、過酷にして清冽なる愛の物語。

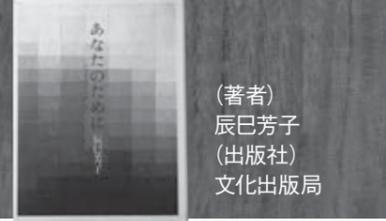
初秋



(著者) ロバート・B・バーカー
(出版社) 早川書房

私立探偵スペンサーと両親の離婚問題で心を閉ざした少年との交流を描く、厳しくも心温まるハードボイルド。続編の「晩秋」は十年後のお話です。スペンサーシリーズは今年出版された「春嵐」で完結しました。

あなたのために



(著者) 辰巳芳子
(出版社) 文化出版局

副題に「いのちを支えるスープ」とあるように、離乳食から人生最期のときまで寄り添ってくれるスープは家庭を温かく守り育てる岩です。介護体験と研究の果てに出来上がった料理を丁寧に教えます。

作家の読書道



(編) Web本の雑誌
(出版社) 本の雑誌社

人気作家たちはどのような本を読んできたのか？子どもの頃から今までの読書遍歴をインタビューします。ミステリー、SF、純文学、児童文学…読書ガイドとしても楽しめます。シリーズ3巻まで刊行中です。

ターシャ・テューダー最後のことば



(著者) ターシャ・テューダー
(出版社) 白泉社

2008年6月帰らぬ人となった彼女の最後のインタビュー「人生の冬が来たら」暮らしについて、仕事について、人生について92年の生涯を締めくくる言葉と家族の証言をまとめたものです。